

5-3-5 やちほこ 八千戈神社（重要文化財）

例祭日 10月15日

本境内社は、明治以前は徳川家康公が合戦で常に奉持した念持仏の摩利支天^{まりしてん}を祀ったことから東照公ゆかりの摩利支天社と称された。

維新後神仏分離に際し、金印木像は臨濟寺に遷され、以後八千戈命をご祭神とする。

昭和5年（1930）5月29日、昭和天皇御親拝の折には、神部・浅間両社御修理中で、当社を仮殿としていたので、この大前で御親拝あらせられた。

当社は東照公ゆかりの幕府崇敬の社で、社殿の造営も本社に次いで行なわれた。

特に名工の誉高い立川和四郎富昌の彫物が、中国の24の親孝行物語を題材に社殿周囲欄間に飾られていることは著名である。

現在では、武神として信仰され、一般に勝負事の祈願所として広く信仰を集めている。

平成5年9月

静岡浅間神社

説明板より